

# 牛久：学校周辺に見る自然

第63号 ひたち野西近隣公園

2012年1月24日発行

## ＜ 冬の野鳥観察 ～2. 留鳥（水鳥） ＞

水辺公園、冬の野鳥観察シリーズ。第2弾は、一年中同じ地域にすんでいる鳥。こういう鳥を留鳥（りゅうちょう）といいます。まずは、この池に来ると必ず見ることができる**カルガモ**から。



調整池を泳ぐカルガモ。

黒いくちばしの先の黄色が目じるし。  
「グエッ、グエッ」と太い声で鳴く（下）。



第59号でも、<sup>しょうかい</sup>紹介していますが、黒いくちばしに、<sup>せんたん</sup>先端の<sup>めじるし</sup>黄色が目印。水辺の草地に<sup>す</sup>巣をつくり、「グエッ、グエッ」と太い声で鳴きます。上の写真で左側のカルガモはくちばしを水中に入れて泳いでいましたが、植物の<sup>しゅし</sup>種子をよく食べるそうです。



青灰色の体に、黄色のくちばしの特徴の、日本最大のサギ。

こちら、59号でも紹介した**アオサギ**。日本のサギの仲間では、最も大きく、青灰色の体と黄色のくちばし<sup>とくちょう</sup>が特徴。魚やカエルなどをよく食べますが、ヘビや鳥のヒナなども食べるそうです。最近、池の岩の上に立っているのをよく見かけます。が、近くに<sup>よって</sup>寄っていくと、パッと飛び立ちます。





こちらは逆に、シラサギの仲間では小さいので「**コサギ**」。とはいっても、カラスくらいの大きさがありますが。見た目には似ている大きな「**ダイサギ**」や中型の「**チュウサギ**」もいますが、黒いくちばしと、黄色の足指で見分けることができます（ダイサギもチュウサギも足指は黒く、冬にくちばしは黄色）。

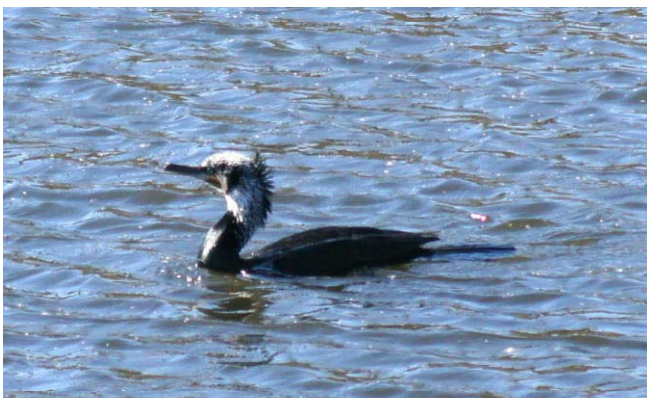
**小型のシラサギ、「コサギ」。黄色の足指と黒いくちばしの特徴。**



↑ **水面をけりながら、低く飛び去るカワウ。**

12月には数多く見かけた**カワウ**も、先日歩いた時もそうですが、最近ほとんど見かけなくなりました。写真も12月のものですが、じっと見ていると、水面をけて助走をつけて、池の反対側へ低く飛んでいきました。下の写真(12/27)では、ずいぶん頭部の白い繁殖羽が目立っていますね（第59号参考）。

← **頭部の白い繁殖羽がめだつカワウ。**



**カイツブリの、たぶんオスとメス。ただし、羽などの色の違いは季節によるもので、雌雄の違いではない。**

池には大きな水鳥もありますが、この**カイツブリ**のように全長 30 cmにも満たない、ムクドリ程度ていどの小さなものもいます。よく、水中にもぐって、少し離れたところから顔を出すのが見られます。たぶん、魚を捕えているのだらうと思います。体色に2種類あって、オスとメスの違いなのかと思っ  
ていましたが、調べてみるとこれは季節の違いで、左写真のように目から首が赤褐色せつかつしよくで体の上面が黒っぽいのが夏羽、目から首も体上面も褐色かつしよくなのが冬羽なのだそうです。中写真はその中間と言えるかもしれません。右写真では冬羽に近いほうが、巣材にするのか、落ち葉をくわえて泳いでいきました。



最後に、クイナ科の**バン**です。前号で紹介したオオバンに近い仲間けいかいしんで、やはり警戒心が強く、なかなか写真にとれませんでした。夏にはくちばしと額の赤が印象的な水鳥いんしょうてきですが、冬には写真のように目だたない色をしています。雑食ざっしよくで、いろいろなものを食べるそうです。【理科支援員 宮内】

← **警戒心の強いクイナ科のバン。冬には目だたない。**